

会 議 録

会 議 名 (審議会等名)	平成22年度 第6回 川西市社会教育委員の会		
事 務 局 (担 当 課)	教育振興部 社会教育室 (内線 3421)		
開 催 日 時	平成22年11月24日(水) 9時55分～12時00分		
開 催 場 所	川西市役所 2階 202会議室		
出 席 者	委 員	生田議長、佐道副議長、小柳委員、渡邊委員、安藤委員 岡田委員、田中委員、廣末委員、池田委員 計9名	
	そ の 他		
	事 務 局	牛尾教育振興部長、小田こども部長、中塚総務調整室長、 松田学校教育室参事、谷社会教育室長、渡瀬中央公民館長、 大屋敷子育て室長、小田中央公民館主幹、河野生涯学習 センター所長、片山主任、下邨主事 計11名	
傍聴の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部不可	傍聴者数	1名
傍聴不可・一部 不可の場合は、 その理由			
会 議 次 第	1. 報 告 (1) 兵庫県社会教育研究大会について (2) その他 2. 議 題 (1) 会議録の承認について (2) 年間テーマについて 「学校・地域・家庭をつなぐ社会教育のあり方」 3. その他		
会議結果	別紙のとおり		

議長	第6回社会教育委員の会を開会する。
事務局	挨拶
議長	<p>報告</p> <p>(1) 兵庫県社会教育研究大会について 議長より報告</p>
議長	<p>議題に入る。</p> <p>(1) 第5回議事録について。 (全員承認)</p> <p>(2) 年間テーマ「学校・地域・家庭をつなぐ社会教育のあり方」について。</p> <p>テーマが大きいので、議論が進めにくいという点もあるが、前回の最後で述べたとおり、何が大切かを絞った状態で今回論議したい。</p> <p>昨年に引き続き、2月が最終になりますので、会として、今年一年間の研究内容をまとめて、事務局の方に報告したいと思っている。</p> <p>社会教育委員は、独立した委員でもあるので、各委員もそれぞれが事務局に対し、意見や考えをまとめておいていただきたい。</p> <p>テーマに向かい論議をしたい。前回の議事録見られて焦点を絞って生きたい。</p> <p>B委員意見をお願いしたい。</p>
B委員	<p>県の研究大会の講演内容を聞き、なるほどと思った。</p> <p>学校でのキャンプなどは、結果検証ができてないことが多いが、トライやる・ウィークはできていると思う。</p> <p>ホームページでの情報発信は、連携の第一段階になる。</p> <p>連携が名前のみで、互いに理解しあう域を脱してないところがあり、中学校区の他の学校を見学している。</p> <p>本校の校区の青少年育成市民会議のあいさつ運動は、行動目標として共通理解は進んでいると思う。</p> <p>共通理解から行動目標の共有をどれだけ進めるかというのがポイントだと思う。</p>
議長	<p>地域・学校・家庭・社会教育の連携について、川西市の実態はどうなっているのかと思う。</p> <p>社会教育と学校との連携に課題はあるが、川西市は上手く</p>

G 委員	<p>回っていると思う。</p> <p>組織が機能的にどんどん発展していると思うことがある。</p> <p>ミュージカル・オペラ活動など、諸団体との連携はどこの市にもあるが、市民に見える形で活動されているので、他市の方から印象に残ると言われることがある。</p> <p>例をだしましたので具体的な形で社会教育の視点を考えながら、意見ををお願いします。</p> <p>市民でできるところからと思いこつこつとやっているが、市民創作ミュージカルで「川西の金太郎」を去年 10 月に上演しまして、今年も 10 月に大和地区の福祉の 30 周年記念事業として牧の台小学校で公演しました。</p> <p>多くの方に見ていただき、劇団円陣の協力を得て、市民の手作りで大成功をおさめました。</p> <p>公演後、子ども達の目は輝いているし、見ていた子ども達からも今度は自分たちでやりたいとの声も聞いています。</p> <p>12 月には、兵庫県教育委員会の阪神地域教育フォーラムが宝塚市であり、パネル展示の依頼を受けました。</p> <p>この活動は、地域に息子や娘を育てて貰った、お返しにと始めました。</p> <p>公民館活動で多くの人に出会い、少しずつ大きくなり、一人の力ではできないことですが公民館、川西市に協力いただいて出来たことです。</p>
議長	<p>時間はかかっても実践を通したつながりの中で作られる横の連携、文化的な資産は、すごいエネルギーを持っている。</p> <p>それを大事に育てて行く土壌や空気、行政の支援の中で行った結果と言える。</p> <p>一方 NPO 活動の側から見て、年間テーマの的を絞るとどのようになるのかご意見いただきたい。</p>
C 委員	<p>行動を起こそうと思った時に出会ったり、支えあったりすることが上手くつながれば活動が広がって行く。</p> <p>市民活動センターにいて、若い世代、子育て世代はどうされているのかなと思っていた。</p> <p>活発に何かされたいと思っておられる方はおられますが、活動したいと思った時に子ども小さいとか、どうすればいいのか分からないといったことがある。</p> <p>その時に公民館の手続きなどを相談に乗ったことがある。</p> <p>この例のように、相談できる所などが、相談したい人の近くにあったらと思う。</p> <p>段階によって必要とする所が違ってくるので、必要な情報を受け取れると良いと思う。</p>

<p>議長</p>	<p>情報の発信の仕方を考え、必要な情報を必要なときに得られる、ここに行けばというのが発信できればと思う。 最近の学校のホームページは頻繁に更新されていて良いと思う。</p> <p>今言われた情報発信ですが、学校現場の様子については最近それぞれ工夫をされて情報発信されていると思う。 社会教育委員の会で提言したことが功を奏したと思う。</p>
<p>A委員</p>	<p>講演のタイトルで「本気・本音・本物の連携教育」とありますがその中で、私は特に「本音でつながる信頼関係」が大事だと思う。</p> <p>本音が出せるか情報公開ですが、個人情報保護など相反する部分もあるが、可能な限り知っていただく方が色々な支えを得られるきっかけになると何度も実感している。</p> <p>学校で行っているのは、児童の登下校の安全を守っていただいている安全協力委員会の方に、月1回集まっていたり、色々思いを聞いたり、学校からの各種連絡をしている。</p> <p>青少年育成市民会議、補導委員会関係、学校のホームページ、コミュニティの広報などで、学校からの情報発信をしている。</p> <p>特にホームページは、日本各地で見られて、転入の際の参考情報とされていると思う。</p> <p>学校全体で、地域行事には、積極的に参加している。</p> <p>例としまして、PTA、ジョイフルフレンドクラブの三世代交流の活動、溪の桜を守る会の活動や、子ども会活動など、子どもが地域の中の子どものとして、地域との信頼関係が結べる機会、出向く機会・場面を設定し、皆が参加しやすく思っている。</p>
<p>議長</p>	<p>学校現場、地域との絡みの部分で、具体的な実践例を説明していただきました。</p>
<p>H委員</p>	<p>先ほどB委員の話にあった、挨拶の運動をもう少し進めたらよいと思う。</p> <p>挨拶は人間の基本であり、家庭の中での、おはよう、行ってきます、行ってらっしゃい、ただ今、お帰りなどの家庭の中での挨拶がスタートだと思う。</p> <p>それが進んで、人間に対する思いやりや心の痛みなどを人間として感じることに出来ると思うが、今はなかなか出来ないと思う。</p> <p>学校の授業の開始時、終了時に挨拶をすることでも人間としての心構えができてきて、言葉と言葉が通じることによっ</p>

	<p>て心が開けてくると思う。</p> <p>このことを実践することによって、地域と学校、家庭の連携に上手く結びつき、つながって行くと思う。</p> <p>私もNPO法人で助け合いの活動をしているが、大きな施設ほど人間が道具になっていると思う。</p> <p>小さな施設では非常に心がいきわたって、家庭に帰ったように感じ、ここは良いと言われる。</p> <p>小さな家庭からスタートし、学校、地域、社会とつながっていく。</p> <p>今は、心と心のつながりを感じ、生きる心のふれあいが、少し欠けているのではないかと思う。</p> <p>小さいことからのスタートがいいことだと感じる。</p>
<p>議長</p>	<p>繰り返し論議されることだと思う。</p> <p>家庭のことと考えてしまえば前に進まないと思う。</p>
<p>F 委員</p>	<p>一庫ダム周遊マラソン大会は29回目を迎えた。</p> <p>ダムの出来た年度に記念になるイベントをとの話があり、お金のかからない事業を検討した結果、マラソン大会になった。</p> <p>各種団体と協議し、人・お金のことを考え、阪急グループが経費の一部を負担していただいた。</p> <p>手作りの大会をと考え、市民が参画を検討した結果、市内にもライオンズクラブ等の社会奉仕団体に、2回目からは協力していただいた。</p> <p>1回目は青年会議所だけに参画していただいた。</p> <p>費用の面等考えた結果、経費に関しては、一部市の補助金、阪急グループの出資金、社会奉仕団体の協賛金という500万ほど集まったという経緯がある。</p> <p>毎年開催され、リピーターが増える要素もあり、参加者が増えてきたが、景気の影響、奉仕団体の減少、各団体の高齢化などがあり、なかなか上手くいかない。</p> <p>色々考えた結果、体育協会だけでなく、その中の各団体に来年から協力依頼し、役員に参加していただき、第30回大会に向けて動き出そうとしている。</p> <p>市民参画といっても上手くやって行ける事業とそうでない活動がある。</p> <p>色々考え、意見交換し、改善しながら事業を発展させて参りたいと思う。</p>
<p>議長</p>	<p>それぞれ実践されている思い、願い等、原点に帰る話がありました。</p> <p>先日の県の研修会の分科会で尼崎の報告がありました。</p>

<p>I 委員</p>	<p>その中で、子供たちに関わっている地域社会が高齢化していることを、マイナスではなくプラス要因と考え、高齢化が素晴らしいことであると発想の転換が必要である。</p> <p>若い人たちの地域社会の中での活動の場を意図的に考えていく必要がある。</p> <p>学校と深く関わっているPTAの若い方が、地域社会の中で活動できるという地域社会を作っていくことが、高齢者の方がいきいきした地域社会を作ることになるのでは、という実践報告があった。</p> <p>家庭問題にもなってくるが、ここにいる委員の方にもPTA活動に携わった方もおられるのですが。</p> <p>PTA全体の役員経験はありませんが、子どもが小学生の頃から図書ボランティアに関わり、今は学校支援地域本部事業で図書ボランティアに就いている。</p> <p>川西市の小学校全体では、多くの方が図書ボランティアとして活動している。</p> <p>学校支援地域本部は今年で3年目になるが、学校に電話し、学校支援地域本部と伝えても、ご存じない先生もおられ、学校の先生方に十分浸透してなく、残念に思っていた。</p> <p>もっと情報発信したらいい人材が発見できるのにとの思いがあった。</p> <p>しかし、会議でその話をしたら、事業の理念を理解していただける方と、直接話ができ、着実につながって行って広げていきたいと担当の方が言われたが、その時点では、もっと広めるのも大事かなと思っていた。</p> <p>しかし、今年、活動していく中で、つながるべき人とは自然とつながって行くのを実感した。</p> <p>情報発信も大事だが、一時的に大きくなることよりも、着実に進んでいくことが大事だと思うようになった。</p> <p>学校もPTA活動もこつこつしていくのが大事だと思った。</p>
<p>議長</p>	<p>家庭の問題も、一庫マラソンの話も示唆にとんだ内容でした。</p> <p>それをつなげて行く具体的な部分では、それぞれ意見はあると思う。</p>
<p>副議長</p>	<p>情報発信はそれぞれの分野でしっかりされていると感じている。</p> <p>情報発信をしているが届かない、どのようにして伝えていくかが問題であると思う。</p> <p>自然とつながる人たちは、ほっといても大丈夫な方々で、</p>

	<p>社会教育というのは、そうでない人に、どれだけ届けることが出来るかが常に問題になってくると思う。</p> <p>県の研究大会でもあったように、浸透していくことを見ていくかを考えないといけないと感じる。</p> <p>ここ数回の会議を振り返り、学校の先生は大変だと思い、先生のサポートが出来たらと思う。</p> <p>ボランティアとは、助けて欲しいと言われた時に助けられる側にいることだと思う。</p> <p>先生方の評価の話がありますが、教室内で色々なことを上手くまとめたりすることが評価されるときには、当然なのですが、同時に、児童・生徒がつまずいたり、いざごさは必ず起こるのは当然で、そこをどのように対応したかを評価の基準の点にした方が、先生をつまずきにもならなくて良いと思う。</p> <p>先生は、子供たちに一番近い所で見て、育ててくれているので、先生には元気でいてほしいし、問題がある学級を立て直そうとしている先生には、責めたりするのではなく、協力する考え方、空気感が大事と思う。</p> <p>何か起こった時、どのように社会は対処していくのかに考えを持っていく大事だと思う。</p> <p>普段使用している施設で、他の施設や学校などの情報が提供できるように社会教育施設全体がつながっていると良いと思う。</p> <p>話は変わりますが、きんたくん人形をつけていると「ふれあいデーって何」と言われ、話がはずみ、ちいさなお人形がとても効果があると感じたので、今後も身に着けて広げていきたいと思う。</p>
G 委員	<p>兵庫県社会教育研究大会の資料の活動目標に「学校、家庭、地域住民の連携協力を進め、地域の教育力を高める社会教育の推進」がある。</p> <p>ミュージカル「川西の金太郎」では、「学校」は、小学校を練習場所に貸していただき、「家庭」出演者のご家族に協力いただき、「地域住民」は福祉関係以外にボランティアに、衣装の作り直しや大道具の補修、運搬等を全部していただきました。</p> <p>多くの協力があって、成功したのだと思う。</p> <p>活動目標そのままだと実感している。</p>
議長	<p>結構地道な形で広がり、地域社会福祉活動まで広がり、高齢者の方まで広がっていますね。</p>
G 委員	<p>2歳から80歳くらいの方まで、総勢70名、4世代で作</p>

<p>議長</p>	<p>り上げた意味でも当てはまっていると思う。</p> <p>G委員の実践例を基にして、川西の文化活動、地域活動の中の検証することによって、学校も交えていろんな部署で広がって行く。</p> <p>学校施設を使ったことなどを分析したらどうかと去年も話していた。</p> <p>何か川西はいろんな形で活動されていて、生涯学習センターのOBのグループがNPO組織を立ち上げるなど、いろんな団体が活動されている。</p> <p>知る人は知っているが、知らない人は知らないし、その辺りのところ写真集を出すなどいろんな活動をされている。</p> <p>文化的な部分は、生涯教育センター、公民館等々、社会福祉委員との関連、放課後子ども教室の実践活動、連携、次々と活動されている。</p> <p>学校現場はどうなっているのかな、地域社会や社会教育と学校の連携と言いながら現実はどうなのか、学校は学校の立場があり、連携を進めて行く上での悩みもある。</p> <p>人権の専門委員オンブズのケースワークもしているが、学校が大変、子どもが大変、あいさつ以前の虐待の問題、最後は、親子の関係になってしまう。</p> <p>学校教育の場面でも、社会教育の場面でも川西として住んで良かったと思える町にするための司令塔はどうなのかなと思う時がある。</p> <p>他市との社会教育委員の集まりの時に、教育委員会と市長部局の連携どうなっているのかが話題になることがある。</p> <p>文化関係やスポーツ関係は法律の一部改正により市長部局で対応可能なため、こども部に行ったりしている。</p> <p>イベント時などに、行政が市民サイドにつながるの発信ができているのかなと。</p> <p>通常G委員の例は、社会教育室が窓口になる事業と思うが。</p>
<p>G委員</p>	<p>今回は大和地区の福祉委員会30周年記念事業で、直接の窓口は福祉政策課で、情報配信は広報誌で、新聞各紙へは広報室からプレスでした。</p>
<p>議長</p>	<p>市民参画条例ができ、社会教育委員の立場で論議をすると範囲が広すぎ、同時に市長部局の総合計画作成時にも論じられていると思うが。</p>
<p>事務局</p>	<p>永遠のテーマだと思う。</p> <p>20年程前に、地方の時代と言われ、その後地方行革と言</p>

<p>議長</p>	<p>われ、行き着くところは、日本の国が中央政権から始まり、体制が欧米とは違う世界の中で、住民意識が非常に高まり、行き着くところ、行政だけの考えでは上手くいかないのが明らかになる中で、住民の方がどのようにして行政のシステムの中に入っていたか、取り組んでは上手くいかずの失敗を繰り返し、ようやく意思の形成の段階で住民の方に入っていたかのためのひとつのシステムができた。</p> <p>ただ、システムを造っても動かして行くのは人であるので考え方がないと上手くいかないと思う。</p> <p>具体的な形として成果を上げたいと思う。</p> <p>情報を発信しているけど届いてないとの意見がありましたが、放課後子ども教室の事業公開レビューで、仕分けをされている先生から、放課後子ども教室事業を嫌々やっている事業と思っていたが、ホームページなどを見て、血の通った事業であると感じたとの手紙をいただいた。</p> <p>その手紙はうれしい反面、情報発信しても伝わってなく、それは、発信してないのも同じだということで身につまされ、大きな課題と宿題をいただいたと思った。</p> <p>今までの発想での行政からの「ふれあいデー」なら、動かない時代であり、そのような発想では抵抗がものすごく大きいと思う。</p> <p>ふれあいデーなどは、写真など身近な形で、親子の関係は大事だと、視覚的にうったえるものもあり、情報発信の仕方で大分捉え方が違ってくる。</p> <p>行政も苦労されながら頑張っている。</p>
<p>A委員</p>	<p>行政から意思決定過程に市民を巻き込んで行くという話でしたが、学校も同じだと思う。</p> <p>学校も受け入れる意識が必要で、登校は、学校支援地域本部など毎日のお世話になっていますが、学校によってはお世話になっていない学校もあると思う。</p> <p>学級崩壊に向かっている学校には、ボランティアの力を借り、何とかできないかと言ってくださっているところある。</p> <p>学校の体制として、外からのものを拒む体制の学校や受け入れない雰囲気があるような学校内だけで仕切りや運営をしている学校もありますが、地域の人材に囲まれており、色々なところに声をかけたら支援してもらえるのと思うことがいっぱいあり、利用しない手はないと思う。</p> <p>教育を病気に例えると予防だと思う。</p> <p>学級崩壊など治療のほうに移ったら大変で、患部を取り除く手立てが必要なのです。</p> <p>けれど、予防の間に色々な人達の支援を受け入れ、ことが</p>

議長	<p>起こる前に、起こりかけたらそれを潰して行き、それを色々な人が見ている。</p> <p>静岡県だったと思うのですが、新任教諭が学級崩壊を苦に自殺しました。</p> <p>学校の中からも完全に孤立していました。</p> <p>こういうことを絶対につくらない、兆しがあるのですから学校の方で見つけて対応すると言うのは、違うと思う。</p> <p>子供たちを地域の方が見た時どうなのかなという連携が大事で、色々な人の目が入っているというのが学校教育には必要と思う。</p> <p>学校の文化は、閉鎖的な部分もあるが、違った視点で地域や色々な人の意見を学校現場は取り入れて行かなければと強く思う。</p> <p>現在、評価をどの学校もやかましく言われているが、身内が身内で評価している部分もあり、実態を調べて行かなければならないのではと思う。</p> <p>中学校区を単位として、教育推進活動を行っているのですが、学校支援地域本部で培ってきた実績、人材を引継いでほしい。</p> <p>来年以降どういった形で持って行こうとしているのか、具体的な形が見えない。</p> <p>コーディネーターの配置までお金はなくても示唆的なものを出してほしい。</p>
I 委員	<p>今年はコーディネーターが3人になったが、3人で全学校区を分担しているので、自分の地域以外の学校は、分からないことが多いので、中学校区ごとにコーディネーターがいる方が全体でつながっていけると思う。</p>
議長	<p>組織が色々ありすぎる面はあるが、G委員は学校評議委員もされているが、その視点から見てどうか。</p>
G 委員	<p>中学校区ごとにコーディネーターがいれば地域のことが良く分かり、もっと深くやっていけると思う。</p>
議長	<p>社会教育室ではPTAも総括していますが、PTA活動と地域活動との連携は具体的にはどうなのか。</p>
事務局	<p>PTA連合会は、それぞれ毎年事業計画に基づいて、人権など6分野ほどに渡って活動されており、各学校のPTAでやっておられる部分とPTA連合会でやっている部分があり、川西市は積極的と思っている。</p>

	<p>学校支援地域本部は出来るところからということで、現在4人のコーディネーターでやっている。</p> <p>人材育成は、難しい部分があるので、ボランティアで学校のことを非常によく理解され、学校に入っても違和感のない人で、かつて地域でもリーダーシップをとられていて、地域にもある程度顔が利いて、それが上手くマッチする人材を発掘している。</p> <p>中学校区単位なら、地域の方もボランティアの方の顔が見えるので、学校のニーズに応じた支援を出来る学校からして行っている。</p> <p>川西市は、図書ボランティアが充実してきているので、積極的に研修を行い、長期休暇に図書室を開けたり、読み聞かせしたり、校長先生が中心となり、陽明小学校などのプリント学習など成功例を元に行っている。</p> <p>学校支援地域本部事業は、地域が主体であり、行政が支援し、PTAも協力していかなければならないと思う。</p> <p>先生に理解が進んでいない部分は、課題と思っている。</p>
議長	<p>学校支援地域本部は、3年間で大きな問題提起をしたと思う。</p> <p>学校現場は大変だったと思うが、逆の意味で先生方を支援していかなければと言うのがある。</p> <p>川西市は、子どもの視点で発する組織オンブズ、豊かな地域の中で伸び伸びと子どもが育つ組織があり、制度として整っていると思う。</p> <p>中学校区を単位の教育推進活動の見通しについて、具体的な考え等を教えていただきたい。</p>
事務局	<p>学校支援地域本部のコーディネーターを各7中学校区の状況に合わせ、校長・教頭がコーディネーターをしてもいいと思っているし、地域の方でコーディネートできる方がおられたら連携すればいいと思う。</p> <p>お互いが協力しないと成功しないし発展もしないと思う。</p> <p>学校支援地域本部の今後のあり方、人材の取扱につきましても、社会教育室とも連携しながら、実行委員の方と協力しながらやっていきたいと思う。</p> <p>進め方は、今ある資料、資源を活用していくところが改めて問われている。</p> <p>また事務局の方で、その点を見直し、全中学校区へ発信できるところと、学校校区的特徴、得意なところを活かして行きたいと思う。</p>
議長	<p>まとめるところまでいきませんでした。が、今後は、1月、</p>

<p>事務局</p> <p>議長</p>	<p>2月の2回しかありません。</p> <p>1月は教育委員との意見交換会の協議をしたいと思う。</p> <p>具体的な実践は、よくやっておられるし、情報発信についても議論して、昔より進んでおりますし、委員自身の発信にももっとしていかなければならないと思う。</p> <p>今年委員になられた方の初回の意見が新鮮に印象的に残っているが、思いや意見を1月についてはテーマをまとめとして論議したいと思う。</p> <p>教育委員との意見交換会もあるので、独任委員として考えをまとめておいていただきたいと思う。</p> <p>事務局から事務連絡をお願いします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 阪神南地区社会教育委員協議会研修会の説明。 ・ 次回の社会教育委員の会の説明 <p>以上で閉会する。</p>
----------------------	--